

INDEX

- p1 第6回女性の健康週間 県民公開講座
「健康な肌で若々しい毎日を」の報告
- p3 「日本医師会第17回男女共同参画フォーラム」の報告

第6回女性の健康週間 県民公開講座 「健康な肌で若々しい毎日を」の報告

吉備医師会 きび皮膚科形成外科クリニック 委員 漆原 嘉奈子



2023年2月23日(木・祝)、女性の健康週間 県民公開講座が三木記念ホールで開催されました。2017年に始まり2021年のコロナによる中止を乗り越え、今回で6回目となりました。2022年秋以降のいわゆる「第8波」のピークは過ぎたと見られ参加者は、会場144名、オンライン102名でした。

過去の開催時、男性よりも女性が多いことより3階の男性トイレを女性用とし、当日受付の状況をみてサテライト会場へ誘導するなど、混乱のないように事前に打ち合わせをしていたことでスムーズな運営ができたと思います。開催にあたりご協力いただいた県医師会の皆様、県医師会および女医部会の先生方に心より感謝申し上げます。



山本剛伸先生

今年「健康な肌で若々しい毎日を！」というテーマでした。講演1は、川崎医科大学総合医療センター皮膚科副部長 山本剛伸先生に「痛い水ぶくれ 帯状疱疹に

ついて」ご講演いただきました。帯状疱疹ワクチンのCMが流れていたこともあり一般の方にとっても興味深い内容であったと思います。疫学および発症から治療、後遺症さらに話題となっている予防接種まで非常にわかりやすいお話でした。中でも帯状疱疹は高齢者がかかる病気ではないこと、再発率は高くはないものの複数回かかる可能性があること、特効薬のない帯状疱疹後神経痛は治療に難渋すること、今後の高齢化社会において帯状疱疹ワクチンも一案であるなど本疾患を身近に考えさせられました。私は皮膚科ですので、不活化ワクチンの有効性価格の高さよりもコロナワクチンよりも副作用が強いことが印象に残りました(実際、この講演後38℃超えの副反応を経験)。

講演2は、川崎医科大学皮膚科教授 青山裕美



青山裕美先生

先生の「手荒れを直そう！」でした。人目につきやすく衣類で覆われることのない手は、コロナによる手洗い・消毒の増加で多くのダメージを受けている部位です。そこでまず肌のうるおいを保つには三つの保湿因子である皮脂膜、天然保湿因子、細胞間脂質が重要であり加齢でも低下するため保湿保護が大切であること、そのために①ハンドクリームでうるおす ②湿疹は薬で治療する ③手仕事では 使わずに注意し刺激負担をへらす ④洗わずに⑤よくなって油断せずスキンケアを続ける必要がある

ることをわかりやすくスライドで供覧していただきました。また、薬剤の使用量は1FTU（人差し指の先端から第一関節までチューブから絞り出した量が両手のひらに塗る量に相当する）を手洗い後5分以内にすり込まずティッシュがつく程度使用するといった具体例も教えていただきました。手荒れは女性にとって悩まされる日常疾患の一つです。手をダメージから守る、まさに健康な肌で若々しい毎日を!というテーマに沿った講演でした。

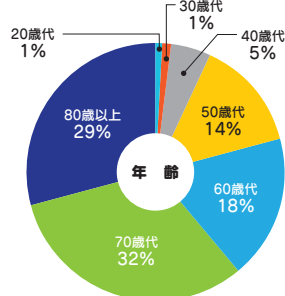
なお今回のアンケートの結果をまとめていただいております。ご参照ください。

5月8日(月)新型コロナウイルス感染症は5類に移行され街中はコロナ以前の日々が戻っているようにみえます。しかし、実際はじわじわと増え7/24~7/30岡山県全

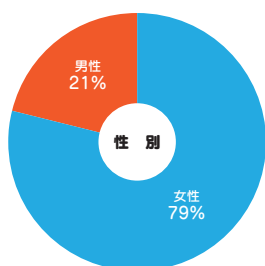
女性の健康週間 県民公開講座(R5.2.23)アンケート結果

【246名(会場参加:144名、WEB参加:102名)
回答者 197名(会場:138名、WEB:47名) ※無回答を除く】

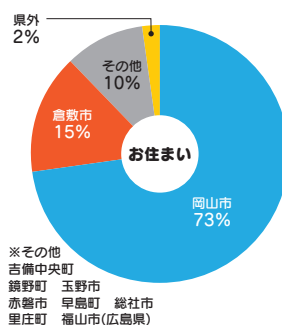
1-1、年齢



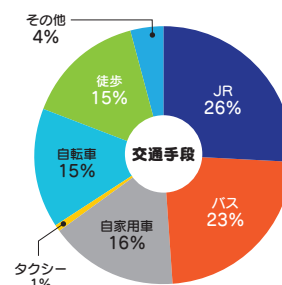
1-2、性別



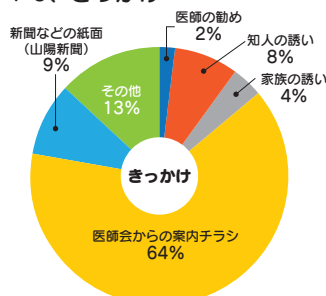
1-3、お住まい



1-4、交通手段

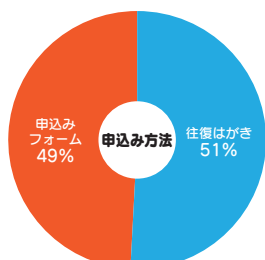


1-5、きっかけ

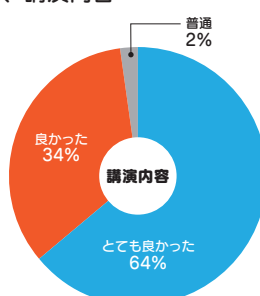


※チラシのあった場所 図書館

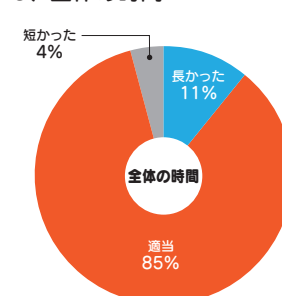
1-6、申込み方法



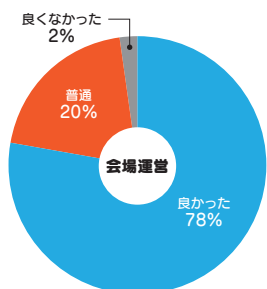
2、講演内容



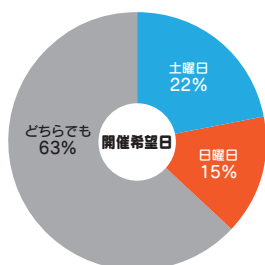
3、全体の時間



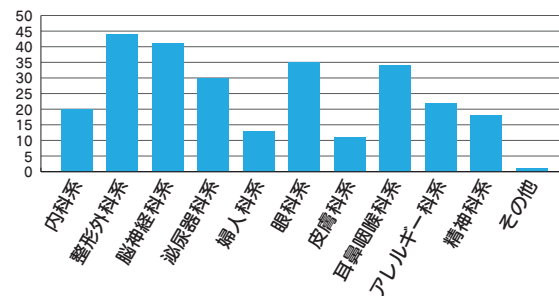
4、会場運営について



5、開催希望日



6、次回の希望診療科



質疑応答

体では、定点あたり15.43と増加しております。コロナは株の変異によりワクチンも従来のものでは効果が乏しくなりました。次回のテーマは「睡眠」です。滞りなく開催されることを希望しております。

今年も酷暑です。皆様 お体ご自愛くださいませ。

「日本医師会第17回男女共同参画フォーラム」の報告

女医部会委員 坂口 紀子

2021年以降、対面開催が見送られていた本フォーラムに、久しぶりに会場出席しました。岡山県からは県医師会から神崎寛子副会長、山田斉常任理事、岡茂理事、女医部会から渡邊恭子部会長と筆者の参加でした。令和5年5月27日（土）、三重県四日市市で開催され、参加者254名と従来と同規模と感じられ、他地区の参加者には旧知の方々の顔も見えてリアル開催の活気を感じました。

今回は「医師の働き方改革に寄与する男



松本吉郎日本医師会会長

女共同参画を目指して」がテーマであり、冒頭の松本吉郎日本医師会会長挨拶でも、「働き方改革」に言及がありました。勤務環境評価センターの早めの受審を勧められ、働き方改革と医療の質の担保を両立させることが重要と述べられました。また、男女共同参画については人権にも関わる問題であり、働き方改革は男女共同参画の推進を後押しする上でも絶好のチャンスになると述べられました。



浅田剛夫氏

次いで、基調講演は浅田剛夫・井村屋グループ株式会社 取締役取締役会議長によるものでした。同社は三重県で創業、羊羹など甘味食品を多く製造販売しています。女性の活躍が発展の基礎と

なっている社内の様子を紹介され、それぞれの差異を認めて話し合いながら協働性を創造し、「評価と平等、機能の活用のバランスが重要」と述べられたことは、医療現場にも通ずるものがあると感じました。

続いて報告では、小泉ひろみ日本医師会男女共同参画委員会委員長が同委員会の取り組みについて報告。神村常任理事から日本医師会女性医師支援センター事業について、説明がありました。

シンポジウムは、新保秀人三重県立総合医療センター院長が、同センターの働き方改革について、働き方改革の目標が



新保秀人先生



入山紀美子先生

「職員が働き続けたいくなる病院づくり」であることを紹介されました。入山紀美子医師は、80代の現役医師であり、ご自身の経験や、今後医師の女性比率を上げていく必要性を説かれました。

次に医学部の同級生である杉本昌彦山形大学医学部眼科学講座教授と杉本由香三重大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学准教授ご夫妻が、それぞれの立場から説明。昌彦教授は、女性のみではなく、全体を俯瞰した勤務体制づくりが



杉本昌彦先生



必要とされ、由香准教授はタスクシフトなどを行いながら、勤務時間が短くてもキャリア形成ができるような環境づくりを提言されました。シンポジスト5人目の金田倫子三重



杉本由香先生

大学医学部附属病院産婦人科助教の発表は、三重大学病院産婦人科の取り組みなどを紹介されました。



金田倫子先生

with コロナから、次のステージに進みつつある医療界ですが、男

女共同参画については体制整備や医療者自身の意識改革が進みつつあるものの、そこに「働き方改革」の視点が加わり、さらなる工夫と努力を重ねていく必要性があると感じました。



懇親会会場

令和5年度

岡山県医師会女医部会 関連行事

11月

5日(日) 令和5年度女性医師支援・ドクターバンク連携中国四国ブロック会議
ホテルグランヴィア岡山

12月

9日(日) 女医部会委員会
学術奨励賞・会長賞・天晴れジョイボスアワード・地域医療貢献賞表彰式
岡山県医師会館

10日(日) 第6回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ
岡山県医師会館

2月

23日(金) 女性の健康週間 県民公開講座
岡山県医師会館 ハイブリッド開催

編集後記

20代で医師になってから半世紀。後期高齢者のレッテルを貼られてしまった今日、全国の開業医が抱える問題を取り上げたいと思います。

3人の子供達はみな医師(長男:神経内科医、次男長女:皮膚科医)になりましたが、東京在中、幸か不幸か誰もあとを継ごうとは言わず、皆それぞれの人生を歩んでいます。

自分も親の病院、特別養護老人ホームをも継承せず(現在は従兄弟の子どもたちが継承)鹿児島県指宿市から美作の地に嫁し、開業してから既に40年近くになります。十数年前に大病を患いその後は疲れやすくなり、また頭の衰え(回転や記憶力)も目に見えてきました。幸いなことに患者さんはずーっと通院してくれています。いまだに新患さんも来られる混み具合で2023年も暮れを迎えようとしています。

少し休みたいと思う頻度は増え、休みの日は昼まで寝ていることも増えてきました。今までフル回転してきた皺寄せが現在

になって来ているのだらうと思います。このような状態で困った問題は、医師には定年がないことです。定年がないイコール自分で潮時を決めないといけない、スタッフや患者さんの為にはいつまでも働いていたいと思いますが、自分の能力・身体・疲労の事を考えるといつまで働けばよいのだろうかと思わない日はないです。

しかし、いざ辞めるとなるとその後何をしたらよいのか全く分からない想像もつきません。「認知機能のためには仕事をしている方がいいし、脳にボケる暇を与えない方がいい」と息子は言います。それもその通りで働けるうち(患者さんから求められているうち)は働いてみようか「でも疲れやすいのであまり混まないように来てね。」と心の中で呟いて毎日の診療を行っています。

全国の(後期)高齢の開業医は皆同じ思いをしているはずだと思ひながら、明日も診療を頑張ってみようと思います。

菊池クリニック 菊池 了子